

名 誉 会 員



中 野 宏 君
日本鋼管(株)相談役

中野氏は昭和6年東京帝国大学工学部機械工学科を卒業、昭和8年4月日本鋼管(株)に入社、鋼管製造部門の業務に携ったのち建設部門を担当し、昭和29年に本社建設部次長となつた。昭和31年4月から2年間合金鉄を製造する新潟電気製鉄所長心得を勤めたのち、建設部長として再び建設部門に戻り、34年5月取締役、37年5月常務取締役、42年5月専務取締役、43年5月取締役副社長、44年代表取締役副社長を経て、48年5月相談役に就任して現在に至つている。なお、36年10月から39年2月の間は水江製鉄所長を勤めている。

この間、戦後の日本鉄鋼業復興期以来、鋼管製造設備を初めとする設備の近代化・新鋭化に尽力して多くの功績を残し、次いで昭和33年にその鉄鋼一貫体制を確立した水江製鉄所について建設と操業を直接指導した。この製鉄所は、当時としての大型高炉と大型転炉を主体とした一貫薄鋼板専門工場として世界の先駆をなしたものであるのみならず、そのコンパクトなレイアウトと高生産性が世界の注目を浴びた。

また昭和34年から36年の企画部長兼建設部長時代には福山製鉄所の立地選定とその基本計画立案を推進して、同製鉄所の世界最大規模への発展の素地をつくり、その後副社長就任後は同社鉄鋼部門の技術および製造業務の最高責任者として、福山製鉄所の増設と操業を指導するとともに、扇島計画を含む京浜製鉄所の合理化、また技術研究開発等にその卓越した指導力を発揮した。

本会に関しては昭和47年から2年間会長として在任し、高度成長時代が過ぎた鉄鋼業における技術の重要性から当協会の果たすべき役割の重さを強調し、協会における研究活動の充実強化を推進し、一方諸外国との技術交流にも多くの力を注いだ。また会員相互が理解を深め合いながら協会の運営をより合理的にするため、アンケートにより会員各層の意見を求め、それを勘案しつつ積極的に運営の改善を図つた。